

第2回 JPIDD 三宅政務官開会挨拶

令和6年3月19日

ようこそ、東京へおこしくございました。日本国防衛大臣政務官の三宅伸吾です。トゥポウトア・ウルカララ・トンガ王国皇太子殿下、ティコンドゥアンドゥア・フィジー内務移民大臣、ビリー・ジョセフ・パプアニューギニア国防大臣を始め、太平洋島嶼国の皆様、パートナー国の皆様、ここにおられるすべての皆様を心より歓迎いたします。

まばゆく光り輝く海、みどり豊かな島々を擁する、ブルー・パシフィック大陸。このブルー・パシフィック大陸において、より豊かに、そしてより安心して暮らすことのできる世界を、子や孫の世代へ手渡していくために、今何ができるのか、何をなすべきかを共に考えるべく、本日ここに、私たちは集いました。

【日・太平洋島嶼国間の協力の進展】

我が国は、1997年から「太平洋・島サミット（PALM）」を開催してまいりました。前回2021年のPALM9では「太平洋のキズナ政策」を発表しました。これに基づき、我が国は政府全体の取組として、太平洋島嶼国との協力関係を着実に進展させてまいりました。本年は10回目という節目にあたるPALM10を7月に開催する予定です。

防衛・安全保障分野における太平洋島嶼国との協力も、着実に前進しています。現在、防衛省としては2つの貢献を進めています。

<1：地域の平和と安定に貢献>

第一に、太平洋島嶼国やパートナー国とともに、地域の平和と安定に貢献しています。

自衛隊の艦船や航空機が太平洋島嶼国の港や空港を訪れ、親善訓練を行うのみならず、能力構築支援を通じて太平洋島嶼国の安全保障上の能力の向上にも貢献しています。

昨年8月、我が国は初めて、太平洋島嶼国の海軍士官、水上警察の方々等に護衛艦「いずも」へご乗艦いただき、オーストラリア近海において「第1回日太平洋島嶼国及び東ティモール乗艦協力プログラム」を実施しました。写真におさめられた隊員たちのはじけるような笑顔からも明らかだったように、私たちのキズナが育まれたすばらしいプログラムとなりました。

また、太平洋島嶼国地域におけるパートナー国の取組にも我が国は積極的に参加しています。例えば、「パシフィック・パートナーシップ」には2007年から継続的に参加しており、直近ではパラオとソロモン諸島において医療活動を実施しました。今後も、パートナー国とも連携し、地域における協力を促進さ

せていきたいと考えています。

ここで、ソロモン諸島での活動について、もう一つご紹介したい我が国の取組がございます。第二次世界大戦中のガダルカナルの戦いから80年以上が経過した今も、ソロモン諸島には多くの不発弾などが残っております。住民の方々がこうした不発弾などによる事故に巻き込まれることを減らすため、本年1月、防衛省としましてはソロモン国家警察に対して初めてとなる不発弾処理に関する協力プロジェクトを実施いたしました。平和を願い、平和を実現する国家としての歩みを、これからも皆様と共に、一步ずつ進めて参ります。

＜2：強靱かつ持続的な発展に貢献＞

第二に、日本は太平洋島嶼国の強靱かつ持続的な発展にも貢献しています。気候変動の影響により厳しさを増す自然災害への備えとして、我が国はパプアニューギニアに対し、災害活動時に活躍する重機の整備について能力構築支援を進めております。

また、実際に自然災害が生じた際には、国際緊急援助活動も実施しています。例えば2022年、トンガにおいて火山島の噴火による被害を受けられた方々のため、オーストラリアやニュージーランドなどの関係国とも緊密に連携しながら、即座に自衛隊を派遣し、火山灰を撤去するための用具や飲料水をお届けしました。

【JPIDDの役割・意義】

このように、安全保障分野においても着実に発展してきた太平洋島嶼国と日本とのキズナが、JPIDDという国際会議を開催するまでに発展してきたことを大変喜ばしく思います。第1回JPIDDは、新型コロナウイルス感染症のためオンライン開催でありましたけれども、今回は初めての対面開催として重要な進展を迎えました。

現在、我々は、大変厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、そこには、平時と有事、軍事と非軍事では切り分けられない様々な課題があります。具体的には、偽情報等を活用した影響工作や宇宙・サイバー領域における新たな課題、IUU漁業をはじめとする海洋に関する諸課題、そして人類共通の課題である気候変動への対処などです。こうした様々な課題に対処するためには、皆が力を合わせる必要がございます。

また我が国は、分野横断的な課題である「女性・平和・安全保障（WPS）」に関する取組を強化しています。紛争や災害等においては、女性や女児等がより脆弱な立場に置かれることを認識し、その保護・救済に取り組まなければなりません。女性が平和維持活動や災害対応等に主導的・主体的に参加することで、より持続的な平和に資することができると考えています。我が国としては、WPSの視点に立った国際協力をより一層推進してまいります。

こうした幅広い安全保障課題を議論するに相応しく、本日は多くの太平洋島嶼国、パートナー国、そして我が国からは海上保安庁、警察庁といった様々な機関の皆様にもご参加をいただいております。特別セッションには、長年にわたり太平洋島嶼国地域の安定と繁栄に貢献されてきた笹川平和財団からもご参加をいただきます。

ご来賓の皆様、私たちはこの類まれなる機会に恵まれました。本日より二日間、次の世代に手渡すことのできる平和と安定と繁栄のために、率直で建設的な議論を行い、そして、それぞれが抱えている困難を互いに理解し合い、解決の手立てを共に模索する場と致しましょう。

ご清聴ありがとうございました。